

**製品名: EDG-8 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10304**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	S1PR5
別名	S1PR5; EDG8; Sphingosine 1-phosphate receptor 5; S1P receptor 5; S1P5; Endothelial differentiation G-protein-coupled receptor 8; Sphingosine 1-phosphate receptor Edg-8; S1P receptor Edg-8
遺伝子 ID	53637.0
SwissProt ID	Q9H228
免疫原	抗血清はヒト EDG8 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 335-384

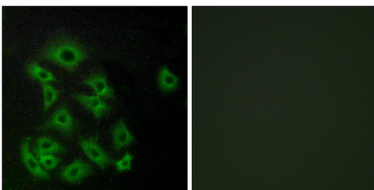
**背景**

リゾスフィンゴ脂質であるスフィンゴシン 1-リン酸 (S1P) は、細胞増殖、アポトーシス、運動性、および神経突起退縮を制御します。その作用は、細胞内ではセカンドメッセンジャーとして、細胞外では受容体リガンドとして作用します。S1P と構造的に類似したリゾ脂質メディエーターであるリゾホスファチジン酸 (LPA) は、EDG 受容体として知られる G タンパク質共役受容体群を介して細胞にシグナルを送ります。一部の EDG 受容体 (例: EDG1、MIM 601974) は S1P 受容体であり、その他の受容体 (例: EDG2、MIM 602282) は LPA 受容体です。[OMIM 提供、2008 年 3 月] 発達段階: 妊娠 24 週では、皮質板および皮質外皮質領域の垂板内で放射状グリア線維の断片が陽性となります。これらの陽性断片は、しばしば静脈瘤として拡大して現れ、その一部は血管で終結する。妊娠 28 週から 30 週の間、すべての同皮質および異皮質領域に、免疫標識された放射状グリア線維が含まれ、溝の隣で湾曲が明らかになる。妊娠 32 週を過ぎると、放射状グリア線維は徐々に消失し、代わりに放射状グリアとアストロサイト間の陽性移行段階が見られるようになる。疾患: 白血病性大顆粒リンパ球 (LGL) で過剰発現している。LGL は、自己免疫疾患を伴うことが多いリンパ増殖性疾患である。機能: リゾスフィンゴ脂質スフィンゴシン 1-リン酸 (S1P) の受容体。S1P は、ほとんどの種類の細胞および組織に多様な生理学的効果を引き起こす生理活性リゾリン脂質である。ヘテロ多量体 G タンパク質の G(i/o)alpha および G(12) サブクラスの両方に結合している (類似性による)。放射状グリア細胞からアストロサイトへの形質転換において調節的な役割を果たし、これらの細胞の増殖活性に影響を与える可能性がある。類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。組織特異性: 脳に広く発現しており、特に白質が優勢な脳梁に顕著に発現している。脾臓、末梢血白血球、胎盤、肺、大動脈、胎児脾臓で検出される。多くの組織抽出物で低レベルのシグナルが検出される。アイソフォーム 1 は主に末梢組織で発現し、アイソフォーム 2 は脳、脾臓、末梢血白血球で発現する。、

## 研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

## 画像データ



EDG8 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。